

# 糸島半島のアクセント

稲川 順一

糸島地区は、福岡県の北部筑前の中でいうと、西部に位置する。現在の行政区分では、糸島半島の東側三分の一は福岡市西区に属している。半島の西側ほとんどは、糸島郡志摩町である。志摩町の南側には前原町が接していて、これは背振山地まで続く。前原町の西側に二丈町がある。

糸島は、農業地帯であり、また漁業も盛んである。農業では、米作、果樹栽培、野菜造り等が行なわれ、福岡市が近いために、近郊農業の性格を持っている。また農村の過剰労働人口を福岡市へ送り込む地帯であり、最近はベットタウンとしての発展も見られる。交通機関としては、鉄道が筑肥線の名で通り、単線ではあるが、福岡市と唐津市とへ通じている。また国道202号線が鉄道とほぼ平行に走っていて、西鉄バス、昭和バスが通っている。ここで行なわれる言葉は、いわゆる博多弁に非常に近い言葉であり、アクセントも筑前中央部のそれと良く似ている。ただ、筑前中央部のアクセントよりは、豊前式アクセントに近い面もある。平山輝男氏の報告（『九州方言音調の基礎的研究』一九九頁以下）によると

## △一拍名詞▽

※ 助詞が「ガ、ニ、オ、モ、ハ」などの場合  
●▽型

となり、これは筑前中央部と同じである。

※ 助詞が「ノ」になると

●▽型（胃・柄・蚊・気・毛……）  
○▼型（絵・餌・木・紛・字……）

と二つの型が表われる。この二つのアクセント型は豊前と同じであるが、所属する語彙が入れ替わっている。

## △二拍名詞▽

※ 助詞が「ガ、ニ、オ、モ、ハ」などの場合  
○●▽型

●○▽型

となり、これは筑前中央部と同じである。

※ 助詞が「ノ・ナラ・デモ」になると

○●▼○●▼▽……①

（足・穴・蟻・家・池……）

○●▽ ○●▽▽……②

(鮎・味・鳥賊・石・岩……)

●○▽ ○●▽▽……③

(青・赤・秋・朝・麻・痣……)

と三つの型が表われる。これを類の点から見ると、  
②が一・二類、①が三類、③が四・五類である(例  
外はある)。これら①②③のアクセント型は、豊前  
式と同じであるが、①と②は一拍名詞と同じく所属  
語彙が入れ替わっている。

右の報告を踏まえて、糸島地区四箇所、6人について調  
査を行なった。(調査時||昭和五十年春)

まず、調査地点は以下のものである。

福岡市西区大字今津(旧糸島郡)

福岡市西区大字西浦(旧糸島郡)

糸島郡志摩町大字野北

糸島郡二丈町大字鹿家

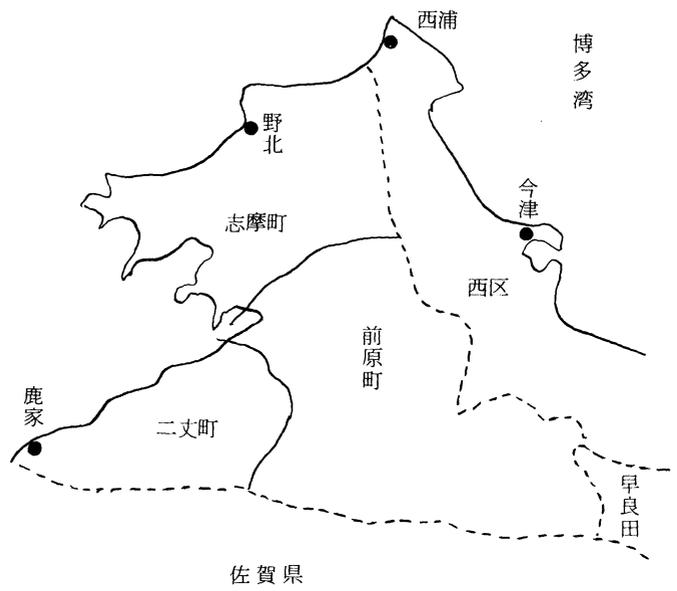
### 調査語彙

一 拍名詞 金田一春彦氏著『国語アクセントの史的研  
究』62頁の類別語彙表から、日常よく使うと思われる  
次の語を用いた。

一類||柄 蚊 子 血 戸

二類||名 葉 日 矢

三類 木 紛 酢 田 手 菜 荷 根 野 火



二拍名詞 奥村三雄氏案の類別語彙表(語文研究三八  
号拙稿所載)から、各類25語ずつ選んで使用した。

穂 目 芽 湯 夜 輪

一類 味 蛤 蟻 烏賊 魚 牛 梅 枝 海老 岡  
 沖 顔 柿 駕 風 蟹 金 壁 蚊 帳 雉 子 傷  
 客 霧 口 国

二類 石 岩 歌 音 垣 紙 川 北 鞍 旅 知 恵  
 弦 寺 梨 夏 橋 旗 肱 人 昼 冬 町 胸  
 村 雪

三類 足 綱 家 池 犬 色 腕 馬 膿 裏 襟  
 鬼 親 貝 鍵 髮 菊 草 櫛 靴 雲 栗 米  
 坂

四類 麻 跡 栗 息 坂 糸 稻 白 瓜 運 帶  
 恩 害 笠 数 肩 絹 錐 下 駄 粉 独 楽 鞆  
 柴 汁 外

五類 青 赤 秋 朝 汗 兄 雨 桶 牡 蠣 影 春  
 蛛 鯉 猿 白 蕎 麦 露 足 袋 鶴 鍋 葱  
 蛭 鮎 前 窓

以下、各人のアクセントを示している。

※ 高田謙一氏

現住所 糸島郡志摩町大字野北  
 生年 明治四四年九月二六日  
 出身校 糸島農業専門学校  
 職業 農業  
 転居 無し

一拍名詞  
 すべて一型 ●▽型をとる。

助詞「ガ」が付属する時

一類	22語	3語	計
二類	22語	3語	25語
三類	23語	1語	24語
四類	3語	23語	25語
五類	2語	24語	25語

助詞「ノ」が付属する時

一類	17語	5語	3語	計
二類	18語	4語	3語	25語
三類	0語	23語	1語	24語
四類	1語	2語	23語	25語
五類	2語	0語	24語	25語

「一拍名詞」+「ノ」の時

一類	5語	0語	5語
二類	4語	0語	4語
三類	1語	15語	16語

「二拍名詞」+「ガ」

一類	23 語	2 語	25 語	計
二類	23 語	2 語	25 語	
三類	23 語	1 語	24 語	
四類	2 語	24 語	25 語	
五類	0 語	25 語	25 語	

「二拍名詞」+「ノ」

一類	17 語	6 語	2 語	25 語	計
二類	20 語	3 語	2 語	25 語	
三類	0 語	23 語	1 語	24 語	
四類	0 語	2 語	24 語	25 語	
五類	0 語	0 語	25 語	25 語	

※ 宗太助氏

現住所 福岡市西区大字西浦にしゅうら  
 生年 明治四二年四月二八日  
 出身校 北崎尋常高等小学校  
 職業 農業

「一拍名詞」+「ノ」の時

一類	5 語	0 語	5 語	計
----	-----	-----	-----	---

二類	4 語	0 語	4 語	計
三類	1 語	15 語	16 語	

「二拍名詞」+「ガ」

一類	21 語	4 語	25 語	計
二類	21 語	4 語	25 語	
三類	23 語	2 語	24 語	
四類	1 語	25 語	25 語	
五類	1 語	25 語	25 語	

「二拍名詞」+「ノ」

一類	11 語	10 語	4 語	25 語	計
二類	16 語	5 語	4 語	25 語	
三類	0 語	23 語	2 語	24 語	
四類	0 語	1 語	24 語	25 語	
五類	0 語	0 語	25 語	25 語	

※ 石田益治氏

現住所 福岡市西区今津 3543  
 生年 明治三八年六月十五日  
 出身校 今津尋常高等小学校  
 職業 農業

「一拍名詞」+「ノ」の場合

一類	5語	0語	5語
二類	4語	0語	4語
三類	0語	16語	16語
計			5語

「二拍名詞」+「ガ」

一類	23語	2語	25語
二類	22語	4語	25語
三類	23語	1語	24語
四類	2語	23語	25語
五類	0語	25語	25語
計			25語

「二拍名詞」+「ノ」

一類	15語	8語	2語	25語
二類	18語	4語	4語	25語
三類	1語	22語	1語	24語
四類	2語	0語	23語	25語
五類	0語	0語	25語	25語
計				25語

※ 袈婆丸昇一氏

現住所 福岡市西区西ノ浦 845  
 生年 明治三十四年二月十五日  
 出身校 尋常高等小学校

職業 農業

「一拍名詞」+「ノ」

一類	5語	0語	5語
二類	3語	1語	4語
三類	2語	14語	16語
計			5語

「二拍名詞」+「ガ」

一類	23語	3語	25語
二類	22語	4語	25語
三類	24語	1語	24語
四類	2語	23語	25語
五類	0語	25語	25語
計			25語

「二拍名詞」+「ノ」

一類	13語	9語	3語	25語
二類	20語	2語	4語	25語
三類	2語	22語	1語	24語
四類	2語	0語	23語	25語
五類	0語	0語	25語	25語
計				25語

※ 横尾壽氏

現住所 糸島郡二丈町大字鹿家 995

生年 明治二七年一月二七日  
 出身校 福吉尋常高等小学校

「二音節名詞」+「ガ」

一類	14 語	12 語	計
二類	16 語	11 語	25 語
三類	19 語	11 語	24 語
四類	10 語	17 語	25 語
五類	23 語	2 語	25 語

「二音節名詞」+「ノ」

一類	13 語	1 語	計
二類	16 語	0 語	25 語
三類	9 語	9 語	24 語
四類	10 語	0 語	25 語
五類	2 語	0 語	23 語

ここで被調査者 6 人の一覽表を作ると

石田益次氏	70 歳	西区今津
宗太助氏	65 歳	西区西ノ浦
袈裟丸昇一氏	74 歳	西区西ノ浦
高田謙一氏	64 歳	志摩町野北
平野雄平氏	61 歳	志摩町野北

横尾寿氏 81 歳 二丈町鹿家

(年齢は調査時現在)

さて、これらの人々のアクセントを考察していこう。

一拍名詞

高田氏と横尾氏のアクセントは、接続する助詞が「ガ」「ノ」のいずれにあっても、既に一型化してしまっている。ここで横尾氏のアクセント一型化については、氏の住所が筑前の最西端、二丈町鹿家(山を一つ越えると肥前・浜玉町)である、ということの説明がっこう。浜玉町は平山輝男氏の調査結果によれば曖昧音調であり、しかも周囲を一型音調に囲まれている。このことから、ここ鹿家のアクセントが曖昧になりつつあると充分考えられるし、実際、氏の二拍名詞アクセントのあり方はそれを事実として裏付けている。(これは、次章参照。一方、高田氏の一型化は地理的な説明では片付かない。なぜなら肥前と野北は可成離れている(地図参照)し、同じ野北在住の平野氏のアクセントは型の区別を保っているからである。また両氏は年齢も極めて近似している。ここで、高田氏は、助詞が「ノ」の場合、○▼型が表われることがあったが、改めて問い直し内省を求めると総て●▽型の発音をされた、という事を考えしてみると、氏の場合、一拍名詞アクセントは、型の区別が曖昧化し、一型化していく途上にある、と考えられる。ただし二拍名詞には横尾氏と異なり曖昧化の傾向はまだ見え



と比較すれば、人数もかなり多く、また地域も広いし年齢も各層に亘っている(糸島は高年層のみ)為、同一の観点からの比較は妥当でないかもしれないが、それらを考慮に入れて見ていきたい。また福岡市西区から若松までのアクセント対応表―拙稿「福岡県諸方言アクセント」(語文研究44・45号)69/73頁参照―をも参考に論じていく。

一類で高起化する語は、「蚊帳」(3名が高起化)、「柿」(1名)、「蟻、霧」(5名全員)の4語である。

筑前アクセント、即ち福岡市及其近郊アクセント(以下「福ア」と表わす)を見ても、これらの語はそれぞれ $\frac{13}{12}$ 、 $\frac{1}{23}$ 、 $\frac{10}{13}$ 、 $\frac{6}{17}$ とかなり●○▽型(下の数字)が多い。「柿」のアクセントは糸島地区の方が保守的である。また地理的に見ると、それぞれ「蚊帳」|| A地点、「蟻」|| A・B・C各地点、「霧」|| A・B両地点で高起化していて、糸島地区もそれに対応している。しかし、「牛」「柿」などでは、糸島は地理的分布に対応していない。「牛」は、福アで高起化の率が大きく( $\frac{6}{17}$ )、地理的にもA、B、C各地点で高起化しているが、糸島では、 $\frac{5}{0}$ である。

「第二類」

川	音	歌	岩	石	
$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	
$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{14}{9}$	
人	肱	旗	夏	梨	寺
$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$
$\frac{23}{0}$	$\frac{20}{3}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{22}{1}$	$\frac{16}{7}$	$\frac{23}{0}$

雪	垣	村	知恵	旅	鞍	北
$\frac{3}{2}$	$\frac{5}{1}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$
$\frac{16}{7}$	$\frac{19}{4}$	$\frac{23}{0}$		$\frac{21}{2}$	$\frac{22}{2}$	$\frac{20}{3}$
弦	紙	橋	胸	町	冬	昼
$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	$\frac{2}{4}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$
$\frac{4}{20}$	$\frac{4}{21}$	$\frac{4}{19}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{22}{1}$	$\frac{18}{5}$	$\frac{15}{8}$

二類で高起化する語は「垣」(1人)、「雪」(2人)、橋(3人)、「紙」「弦」(5人全員)の5語。「垣」は福アでも高起化がそれ程進んでおらず( $\frac{19}{4}$ )またA/K地点を見ても、高起化はB地点のみである。「雪」は福アでは $\frac{16}{7}$ 、また地理的に見てもB・C地点のみで高起化。糸島での高起化する人数(2人)と比較して妥当である。「橋」「紙」「弦」の3語は福アで、 $\frac{4}{19}$ 、 $\frac{4}{21}$ 、 $\frac{4}{20}$ と高起化がかなり進んでいるし、A・B・C地点(「紙」はD地点も)の高起化と対応して、地理的分布に適っている。(石・梨・昼・冬などは福アと対応していない。)

「第三類」

腕	色	犬	網	足	
$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	
$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	
草	菊	髪	池	家	
$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	
$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{1}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	

鍵	親	鬼	襟	裏	膿	馬
$\frac{5}{0}$						
$\frac{23}{1}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{22}{1}$	$\frac{23}{0}$
靴	貝	坂	米	栗	雲	櫛
$\frac{1}{5}$	$\frac{5}{1}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$	$\frac{5}{0}$
$\frac{7}{16}$	$\frac{9}{16}$	$\frac{23}{0}$	$\frac{23}{1}$	$\frac{23}{1}$	$\frac{17}{6}$	$\frac{23}{0}$

三類では、「貝」(1名)、「靴」(5名)が高起化する。福アでは其れぞれ $\frac{9}{16}$ 、 $\frac{7}{16}$ の割合で●○▽型がかなり見られる。また、「貝」(49頁)はA・C・D地区(筑前)、H・J・K・L地点で其れぞれ独立に高起化している。ある程度高起化しやすい語と言えよう。「靴」は、E地点以外では総て高起化していて、福岡県北部全体で高起化が進んでいる語である。雲(それぞれ $\frac{5}{0}$ 、 $\frac{17}{6}$ )は福アでは高起化が進んでいるが、地理的に見て筑前では其れ程高起化しやすい語ではないようである(豊前では●○▽型)。

「第四類」

跡	麻	鞘	粉	害	
$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{5}{1}$	
$\frac{0}{23}$	$\frac{9}{16}$	$\frac{2}{21}$	$\frac{14}{9}$		
瓜	白	稻	糸	板	息
$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$
$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{1}{22}$	$\frac{1}{22}$	$\frac{2}{21}$	$\frac{0}{23}$

絹	肩	数	笠	恩	帯	栗
$\frac{0}{5}$						
$\frac{1}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$		$\frac{1}{23}$	$\frac{2}{22}$
外	汁	柴	独	下	錐	運
$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$	楽	駄	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{5}$
$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{2}{21}$	$\frac{5}{18}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{2}{22}$	

四類では「害」(5名)、「粉」(4名)、「鞘」(1名)が中高(●○▽)型化している。「害」は残念ながら比較資料がない。「粉」は福アでも149とかなり中高型が多い。「鞘」も21(福ア)と少しは中高型が見られる。「麻」「独楽」などは糸島では安定している。

「第五類」

蕎	白	猿	鯉	蜘蛛	秋	赤	青	牡	蛭	
麦								蠣		
$\frac{0}{5}$	$\frac{1}{5}$	$\frac{1}{4}$								
$\frac{0}{23}$	$\frac{1}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{2}{21}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{5}{18}$	$\frac{2}{21}$	
鮒	春	葱	鍋	鶴	影	桶	雨	兄	汗	朝
$\frac{0}{5}$										
$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{1}{22}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$	$\frac{0}{23}$

足袋	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{23}$	前	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{23}$
霧	$\frac{0}{5}$	$\frac{2}{21}$	窓	$\frac{0}{5}$	$\frac{0}{23}$

五類の「蛭」(1名)、「牡蠣」(1名)等の中高型も福アの2<sub>21</sub>、5<sub>18</sub>に対応している。

右で取り上げた以外の語は全く安定している。

ここまでは、二拍名詞に助詞「ガ」が付属した場合のアクセントを福アとA/L地点のアクセントとを比較材料に使いながら検討してきた。その結果、糸島アクセントは「福岡市及其近郊アクセント」にかなり近いが、幾分古い形を保っていると言えよう。

次に、助詞「ノ」が付属した時のアクセントを検討しよう。○●▽型をとる語は、助詞「ガ」のつく語と全く一致するので、○●▽型をとる語だけを見ていく。

一類語 5名全員が平板になる語は5語、  
顔、蟹、雉子、客、国

である。沖||4名、牛||3名、味・鮎・魚・海老・駕・金||各一名。

二類語 知恵||5名。寺||4名。人||4名。岩・垣・屋・鞍・旅||各1名。

三類語 ここでは○●▽型をとる語を見ていく。菊||2名、鞍・旅||1名。

四類語 ○●▽型をとるもの、害||3名、粉||2名。○●▽型をとるもの、害||2名、粉||2名、鞆||1名。

五類語 ○●▽型をとる語、牡蠣・蛭||各1名。○●▽型をとる語、無。

これらの語彙は、I II III IV V という類の体系からはずれたものである。これと、豊前で助詞「ガ」のつく時の体系 I II III IV V からはずれた語彙を比較する。豊前アクセントの被調査者として、川上一郎氏(大正11年生)、水上邦雄氏(大正6年生)の二名を掲げる。両氏共に遠賀郡芦屋町柏原在住(遠賀川河口の東岸)で、漁業を営んでおられる。両氏のアクセントの中で、類と型の対応の例外となる語を見ると

川上一郎氏

一類||沖・鈴・席(○●▽型)。蟻(●○○▽型)

二類||鞍・寺(○●▽型)

三類||雲・膿・靴(●○○▽型)

四類||麻(○●▽型)

五類||

水上邦雄氏

一類||国、鋤(○●▽型)、蟻・鷹(●○○▽型)

二類||鞍・寺(○●▽型)、垣(●○○▽型)

三類||裏・堀(○●▽型)、膿・霧(●○○▽型)

四類||麻(○●▽型)

五類||

このうち先の糸島の語彙と一致するものは、一類||「国」

(水上氏)、「沖」(水上氏)、「蟻」(両氏)、二類  
「鞍・寺」(両氏)、三類||「靴」、四、五類||/である。  
また先に引用した添田氏の論文での若松半島の高年層アク  
セント語彙表と比較すると対応して表われる語は「靴」1  
語のみ、

以上から、豊前式アクセントは、糸島アクセントの親で  
あるとは言えようが、しかし糸島アクセントは分派した後  
独自の变化を遂げ、現在では豊前式アクセントよりは筑前  
式アクセントに近いと言えよう。